

【群舞部 講評】

- 曲数が少ないのが残念でしたが、全体として、またそれぞれに特長があって見応えがありました。集団という共通な条件の上に各団に個性がありました。
ダンスである以上、身体の動きが基本ですが、その上でメッセージ（タイトルの意味）がもう少し明確に表現されるとさらに見る人の心に強く訴えるでしょう。
- 総じて、アンサンブルで必要な、個々の技術や他者との関係性への意識などはとても良く、調和のとれたパフォーマンスが多かった印象でした。さらに考えていただきたいのは、ダンスは単なる身体運動ではなく、社会との接点をもつ表現だということです。日常の中で何を見て、考えているのかという視点が最終的に作品の質に反映されます。良質の作品を鑑賞したり、世界に関心をもつことで、さらに踊りの深度が高まることでしょう。
- 今回はこの部門出場に向けてどこの出場組もよく鍛錬され研究したあとが見られた。それぞれがカラーを持ち、それをアピールしようとする姿勢が見え、見応えがあったのではないのでしょうか。ジャンルにとられずに挑戦する気持ちを持ち続けてほしい。
- 見ごたえのある作品ばかりでした。テクニックも表現の一部として成立していましたし、楽しく拝見できました。次回も更に新しい視点で、そして新鮮な動きで挑戦して下さい。
- 人数をいかしたダイナミックな作品、技術が高い作品が多く、どの作品も見ごたえがありました。構成や見せ場を整理するとより見やすくなり、もっと群舞が生きてくるのではないかなと思うものもありましたが、全体的にとってもレベルが高かったです。
- どの作品も力が入った素晴らしい演技でした。歌詞や言葉の入った音

源を使用している作品が多くありましたが、作品主題と言葉、言葉とダンスの関係性が明確な場合には必然性を感じ、説得力のあるパフォーマンスに繋がっていたと思います。逆に言葉とダンスの関係が希薄な作品では、言葉が浮いているように思われました。作品主題を大切にして曲を選ぶと、踊り手にとっても主題理解が深まると思います。そして理解して踊られた踊りは、観る者に届く踊りとなると思います。

■皆さんとても良くりハーサルをされていて、群舞としての一体感を感じました。どういうところでちがいを作るのか難しいところですが、テーマなどがしっかり伝わって、見ている人の気持ちを動かせる事はまだできる事の一つかと思いました。しかしエネルギーはとても良かったです。今後も期待したいと思います。

■まずは大人数での作品にとっても見ごたえがありました。どの作品も、きっと沢山の練習をつんできた事と思います。作品のテーマを理解し表現するという事がこの群舞部に於いては大切な事だと思います。1人1人がきちんと自分の中で意識し、作品を踊る…これからも自分と向き合い、自分の踊りを目指して行って下さい。